

4-1-7-2 発達心理科

1. 発達障害と学童期のこころの問題の特化して

宮尾益知医長、中野三津子医員と、レジデントとして広瀬宏之、縄手満が、診療と社会的システム構築、研究活動を思春期心理科、育児心理科と協力しながら行っている。

発達心理科の初診患者数は、2004年度で乳児1、幼児220、小学校低学年128、高学年99、中学校44、高校生以上が38名と学齢期が最も多いが、多岐にわたる。男女比は384対146である。親からの依頼216、院外紹介208、院内紹介106名である。診断は、F4分類の神経症性障害が42、F7分類精神遅滞が47、F8分類心理的発達の障害が266と最も多いが大多数は広汎性発達障害である。F9の行動および情緒の障害が84であり、その他の疾患と多岐にわたっている。医療圏は、東京都342、神奈川県115、埼玉県24、千葉県24、茨城県4、福島県3、栃木県3であり、そのほかは、岩手県から兵庫県に及ぶ。入院については、年間平均2人今日が入院治療を行っている。また、もう一つの重要な柱であるリエゾンについて、多くの科との協力の下に診療をおこない心と体の二面から見たこどもの治療を実践した。

診断分類 (ICDコード)	n
F0: 症状を含む器質性精神障害	0
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	0
F2: 精神分裂病、分裂性障害および妄想性障害	1
F3: 気分(感情)障害	9
F4: 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	42
F5: 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	4
F6: 成人の人および行動の障害	3
F7: 精神遅滞	47
F8: 心理的発達の障害	266
F9: 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	84
G8: 神経系の疾患	1
Z6: 社会的環境に関する問題	1
診断名なし・不明	66
保留	6
合計	530

年齢グループ	n	性別	n
乳児	1	男	384
幼児	220	女	146
小学校低学年	128	合計	530
小学校高学年	99		
中学生	44		
高校生以上	38		
合計	530		

1.1 発達障害の問題点への対応

学童期の様々なこころの問題がクローズアップされるようになり、昨年 12 月には発達障害者支援法が公布され、平成 17 年 4 月から施行されることになった。学習障害、注意欠陥多動性障害、広汎性発達障害などの発達障害において知的に大きな遅れのない「高機能、あるいは軽度？」発達障害に対する診断、治療、学校を含めた社会における対応、思春期を含めた予後などについての関心が高まっている。これらの疾患についての総合的な取り組みを始めている。開院以来 3 年になり様々なノウハウも蓄積されつつある。発達障害に対して、診断のみでなく、栄養、環境、家庭生活、教育環境を含めた具体的な指導を行っている。医学の分野としては、前頭葉機能検査、知能検査、認知検査を含めた心理発達検査に加えて、様々な脳機能の器質的な評価、機能的な評価を MRI、F-MRI、CT、SPECT、NIRS などを必要に応じて行っている。

1.2 学童期のこころの問題点への対応

就学前あるいは学童期には様々なこころの問題が起こってくる。児の有する発達障害などの一次性障害に加えて、様々な二次性障害、あるいは家族内・関係の問題。などについても、多面的な複数の医者による診療を行う方向で、診療を行っている。また、チック、爪かみ、不登校、抜毛などの学童期特有の精神的な症状については、中野医員を中心に診療を行っている。

2. 研究活動、広報活動など

2.1 研究活動と発達障害プロジェクト

宮尾は、ゲームの処方箋プロジェクトを、早稲田大学国際情報工学部門、こどもメディア研究所、ナムコと共同にて、立体視ディスプレイを用いて、発達障害に対する支援プロジェクトの第一弾として学習障害支援ソフトの開発を行っている。また、映像刺激の生体に及ぼす影響について研究を行っている。現代のこどもたちにとって、欠くことのできないデジタルコンテンツの認知機能に及ぼす影響と支援に用いる新しいコンテンツは、これからのこどもたちに対しての新しい支援ツールとなりえることと、二次障害の予防などにも活用できる可能性がある。また、言語以外のコミュニケーション手段である非言語的機能の発達の評価法と促進プログラムもこれからの課題である。これらの研究を総合的に、脳科学の面から解明していくことにより、次世代のこどもたちの社会生活訓練にも活用することができ、マスコミ等で騒がれている様々な行動の問題の解決にもつながると考えられる。

2.2 広報活動

教育現場を含めた社会への広報活動として、様々な現場において講演、広報活動を行った。また、奇数月の最終火曜日には、発達障害の科学的側面と実際的な対応について、こころの診療部公開講座「発達障害：理解と対応」を当センター、一階講堂にて行っている。毎回、150 人を超える患者、両親、教育関係者、心理士、言語聴覚士、作業療法士、児童相談所など多くの参加があり、有用な講演に加え活発な討論が行われている。

宮尾は、言語聴覚士、作業療法士、臨床心理士などの教育にも携わり、多くの連携が行われるようになってきている。